

令和 3 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学 部 名 生活科学部

フリガナ カワグチ キョウコ
氏 名 川口 香子

研究期間 令和 3 年度

研究課題名 ライフステージの変化と加齢からみるサードプレイスに関する研究

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	川口 香子	生活科学部	助教
研究分担者	村上 心	生活科学部	教授
研究分担者	井澤 幸	生活科学部	助教

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

少子高齢化に伴う核家族化や独居高齢者の増加などを背景に、地域のコミュニティが希薄化し、社会的孤立が問題となっている。その対策の一つとして、地域における居場所づくりが行政や当事者を主導として進められてきた。居場所形成には一定の時間を要することから、世代を横断した居場所の把握に加え、個人のライフステージや加齢によるサードプレイスの種類や役割の変化を把握することが、今後の居場所づくりの知見を得ることにつながると考える。そこで本研究では、名古屋市を対象とし、日常の交流とサードプレイスの有無や目的を世代間ごとの違いを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

- ・名古屋市市内から特性の異なる 5 つの学区（港区成章学区、千種区高見学区、西区枇杷島学区、中区大須学区、緑区徳重学区）を抽出、及び上海市浦東新区し、アンケート調査を実施した。
- ・アンケートの対象者は全ての世代とし、対象年齢やライフステージによって 5 つのパートに分け、質問を選択できるようにした。
- ・配布方法はポスティングとし、同封した返信用封筒にて郵送回収とした。
- ・アンケート配布、データ入力については、学生のアルバイトに補助を依頼、及び外部業者に一部委託した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

アンケート配布エリアの抽出のために、人口密度や高齢化率、持ち家比率など名古屋市が公開している「 」によって、名古屋市の全ての区をカテゴリー分けした。分類したカテゴリーは以下の通りである。

クラスター1：港区

クラスター2：千種区、東区、昭和区

クラスター3：北区、西区、中村区、瑞穂区、熱田区、中川区、南区、名東区、天白区

クラスター4：中区

クラスター5：緑区、守山区

上海市浦東新区は名古屋市中区と最も特性が類似していた。

居場所の有無や日常的な交流を明らかにするため、日常の交流や居場所について全世代向けのアンケート項目とした。また、世代間の違いを明らかにするために、日常の活動や将来への不安について壮年期（40～64歳）、高齢期（65歳以上）対象のアンケート項目とした。

アンケート調査結果は主に世代ごとの分析を行なった。交流については「外食」が最も多く、交流相手は世代ごとに、「友人」、「両親」、「同僚」と違いが見られた。サードプレイスは「飲食店」、「友人宅」、「文化施設」、訪問目的は「リラックスできること」、「他者に会うこと」、「スポーツや趣味」と世代に違いがあることを明らかにした。また、所属団体、習い事共に壮年期に比べて高齢期の男女の方がより参加していることがわかった。即ち、無職になってから、余暇の充実を図る傾向があると考えられる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①サードプレイス	②居場所	③ライフステージ	④世代
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

【学会発表】

井澤幸他 4名/「ライフステージの変化と加齢からみるサードプレイスに関する国際比較研究その1:名古屋市を対象とした世代による交流相手とサードプレイスの相違」/日本建築学会/2021年9月7日

川口香子他 4名/「ライフステージの変化と加齢からみるサードプレイスに関する国際比較研究その2:名古屋市における壮年期・高齢期の日常の活動と将来への不安」/日本建築学会/2021年9月7日

・本研究で実施したアンケート結果をもとに、エリア別、家族形態別など更なる分析を行うことおよび、別のエリアでの同様の調査を実施すること及びより詳細なサードプレイスの形成や変化について明らかにしていくことを課題とする。